

(様式2)

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102044		
法人名	社会福祉法人愛宕福祉会		
事業所名	グループホームこもれび Bユニット		
所在地	新潟県新潟市北区松潟1490番地1		
自己評価作成日	平成28年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地から離れていることもあり、これまでは地域の方々との交流の機会も限られていました。今年度は、これまでの「笹だんご作り」や「お楽しみ会」への参加に加え、「スイートポテト作り」や「ハロウィンの飾り作り」等、若者向けの地域行事にも参加することができました。毎月発行している広報誌は、今年度からご家族や地域の方に見ていただくだけでなく、ブログに載せたり、区役所での回覧をお願いしています。近年多く発生している自然災害への備えとして、「火災通報訓練」の他にも「水害想定訓練」を事業所単独とエリア単位、合計2回実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームこもれび」は、平成13年7月に新潟市内で初のグループホームとして開設された。事業所の隣りには同法人が運営する特別養護老人ホームや障がい者支援施設があり、研修や防災訓練等を合同開催するなど、日頃から密接に連携しながら利用者の生活を支えている。

また、同法人の事業所以外にも事業所の目の前には病院や介護老人保健施設があり、地域医療・地域福祉の中心となる立地となっている。

開設から15年以上経過しているが、内部は清潔感が保たれており、利用者の作品や行事の写真や飾りや、季節感のある装飾がされるなど、利用者が自分の居場所として安心して過ごせる空間作りを行っている。

事業所は住宅街からは離れた場所に立地しているものの、運営推進会議の開催のほか、地域のいきいきサロン、作品展、防災パトロール等の地域活動に積極的に参加して関係構築に励んだ結果、地域との親交が深まり、声をかけてもらったり、協力を得ることができるようになった。

防災対策に関しても、火災発生時のみならず水害発生時の避難訓練を実施し、隣接の施設や地域住民との協力体制も構築していざという時に慌てずに適切な対応ができるようにしている。

職員の育成や資質の向上にも法人として組織的に取り組んでおり、管理者も職員個々が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。

今後も地域福祉の要の事業所として、益々発展していく事が大いに期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームこもれびの運営理念を作成し、全職員で共有している。ホームの目標に対する個々の意識を高め、日々具体的なケアの実践に取り組んでいる。	毎年度の初めに理念に基づいたユニット目標を立て、さらにそのユニット目標に基づいて職員個人により実践的な目標を作成している。職員個々が作成した目標は、人事考課と絡めて定期的に評価を行い共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根ざした「自宅に代わる家」作りを目指している。近隣2地域の自治会に加入し、年間行事計画の中からご利用者の興味・関心のあるものをその都度確認し、参加を募っている。地域のあいさつ運動についても職員側から挨拶するよう努めている。	地域のボランティアの訪問や総合学習の受け入れなど、幅広い世代との交流を行っている。また、利用者が一方的に支えられるだけでなく、いきいきサロンや展示会、防災パトロール等の地域活動に積極的に参加して地域の一員として交流を行っている。	地域との交流に参加を希望する利用者が固定化している傾向にある。他の利用者の希望を踏まえて、子どもたちとの交流や小学校へのボランティア参加などの機会を増やしていきたい意向もあり、今後の取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者それぞれが地域の一員として実感して頂ける様に、ゴミ拾いや草取りなどの地域貢献活動に参加していただいている。毎月の夜間パトロールに参加する中で、認知症をもつ方のご家族との親交を深めることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催している。ご家族をはじめ地域包括支援センター職員や他事業所職員、地域の知見を有する方からご参加いただき、あらゆる問題に対し建設的なご意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、隣接の特別養護老人ホームで開催している。会議には、利用者・家族・地域・行政の代表者(地域包括支援センター)だけでなく、近隣の他法人のグループホームの管理者にも出席してもらい、運営に関するアドバイスをもらっている。会議で提案された事案については事業所内で検討してサービス向上に活用する仕組みになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と地域包括支援センターの職員との連携を深めている。行事にお誘いしたり、包括主催の会議に進んで参加するよう努めている。今年度からは北区役所に毎月訪問し、広報誌の回覧をお願いしている。	地域包括支援センターから運営推進会議に参加してもらうだけでなく、事業所側から行政主催の会議や認定審査会への参加、広報の配布等を通して積極的に行政と関わる機会を作っており、相談事案があればすぐに相談できる協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の運営方針として設立時から「身体拘束ゼロ」を掲げ、随時職員の意識確認を行っている。自他に著しく危害を加えない限り、いかなる場合においても身体拘束を行わないケアを実践している。	身体拘束に関する研修は、法人全体で年1回行うほか、隣接の特別養護老人ホームと合同でも実施している。業務都合で参加できなかった職員には、資料の回覧や復命講習が受けられるようにし、全ての職員が理解を深めていけるような仕組みにしている。玄関も夜間の防犯目的以外は施錠せず、利用者が安全かつ自由に出入りができるように配慮している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の運営方針として設立時から「身体拘束ゼロ」を掲げ、高齢者虐待防止に関するマニュアルを作成している。法人内研修、外部講師の研修等の勉強会も行っている。法人内の身体拘束廃止委員会にも引き続き参加している。	毎年計画的に隣接の特別養護老人ホームと合同で虐待に関する研修を実施したり、外部研修に参加している。普段の業務の中や、事故報告書等の記録類からも気になるところがあればすぐに検討を行うなど、虐待の発生防止に努めている。また、「安全衛生委員会」で定期的に職員のストレスチェックを行うなど、組織的な取り組みも行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修や外部研修を通し、制度の理解・知識の習得に努めている。日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用しているご利用者もあるため、職員はその対応をとおして学ぶことも多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り契約に関する書類は事前に確認してもらうようにしている。入居契約時、またはご家族からの問い合わせの際には都度、内容の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な困り事については担当が、言い難いことはリーダーや管理者が内容を確認するようにしている。運営推進会議にはご家族の代表に出席していただき、意見を聞いている。玄関脇に苦情相談についての案内とご意見箱を設置している。	利用者から直接聞いた意見だけでなく、日頃の様子の観察の中からも意向を汲み取るようにしている。家族に対しても、具体的な意見があがってくることは少ないが、意見箱の設置や、面会や連絡時、行事等の際に意向確認をするなど、意見を引き出す機会を意識的に作っている。今後は、さらに意見を引き出しやすくなるようアンケートを実施していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案は毎月のユニット会議やリーダー会議で職員に確認する他、委員会や係となっている職員にも確認しながら運営している。	日常的な関わりの中でも、管理者やリーダーが必要時には個別に職員から直接話を聞いており、また、人事考課や人材活性化システムを通じて職員の意見や提案を聞く機会も設けている。実際に職員の提案で脱衣場にエアコンを設置し、入浴環境が改善された事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理・人事考課を1年に2回、人材活性調査を1年に1回実施している。また、今年は、ストレスチェックを全職員対象に行われている。その他、職員の希望・要望は都度確認するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人や中堅、介護支援専門員等、経験や職種に応じたフォローアップ研修を法人全体で年間計画に沿って実加している。また、市や社協、グループホーム協会主催の研修など、外部研修にも随時参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所に、地域密着部会を設け、交流を深めている。また、北区3つのグループホーム運営推進会議に参加し、意見交流をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に来た時点で、親身に傾聴する努力をしている。ご本人やご家族にとって何が不安なのか、何に困っているのかを理解し、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談から入居の申請、入居の契約後に至る流れのなかで、分からないことや不安なことがあれば、いつでも相談いただくようお願いしている。また、入居が決まった時点で「要望書」を郵送し、何かあれば書いていただくようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、グループホームへの入居、その他のサービス、他の事業所の紹介など、相談の内容により複数の選択肢を提示できるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、掃除、調理作業、裁縫、洗濯物たたみなど、それぞれが役割を持ち生活されている。また、ご本人が好きに時に電話をしたり、職員室を自由に入出入りする等、誰もが同じ空間を共有できるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の事情や状況にもよるが、受診の付き添いや外出、精神的に不安定な時の面会や電話など、ご家族から協力していただいている。また、本人の状態や変化等、随時お伝えしながら、ご家族の意向を確認している。ご家族との信頼関係の構築に努め、双方の立場から共に支援していく体制作りを目指している。	本人と家族の関係継続を意識して、家族も参加できる行事を計画したり、受診や買い物支援等は家族にも協力してもらおうなど、事業所と家族で協力して本人を支えていく関係を築いている。また、広報誌やブログを活用して生活の様子を伝えたり、いつでも気軽に本人が家族と電話できる取り組みも行うなど、本人と家族との関係の継続に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やなじみの場所への訪問、展覧会への外出など、ご家族の協力を得ながら途切れないよう支援している。	法人独自で開発したアセスメントシートを活用して馴染みの人や場所に関する情報把握に努め、関係継続の支援に取り組んでいる。実際に家族と協力して馴染みの店や床屋に出かけたり、友人と一緒に外泊やコンサートに出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係やコミュニケーション能力に配慮しつつ、必要に応じて関係作りの支援を行っている。入居者同士の相性や関係性、共同生活の中でのそれぞれの役割や立場、生活背景等を配慮しながら自然な流れで支え合い、交流できるような場面を設けている。気の合うご利用者同士が一緒に過ごすことができる空間づくりにも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活について、ご家族、ご本人の納得のいく場を確保したうえで、その後も必要な支援や情報提供を行っている。また、退居されたご利用者の病院や施設を職員が訪問したり、ご家族がホームを訪れてくださるなど、サービス終了後引き続き家族やご利用者との付き合いが継続できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者ごとに担当職員を割り振る担当制を導入しており、ご入居者の希望やニーズを把握しやすいようにしている。ご本人が希望を伝えられない場合は、ご家族の情報や日々の関わりの中で、ご本人の要望やニーズを読み取れるように努めている。	法人独自のアセスメントシートを活用して、これまでの生活の習慣や本人の意向・希望の把握に努めている。利用者の担当職員が定期的にあセスメントシートを更新し、更新された内容を介護計画にも反映させて利用者個々の意向や希望に沿った生活の実現に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報はもとより、以前利用されていたサービス機関と連携し、生活に関する情報交換を行っている。	入居前には自宅や利用していたサービス事業所を訪問し、家族や介護サービスの関係者からこれまでの生活やサービス利用中の様子、生活環境等の確認を行っている。得られた情報は独自の様式の「あなたの想い」シートに整理し、これまでの生活で行ってきたこと、大切にしていることが事業所でも継続できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや日内変動、時期的な様子、日々の関わりの中から、それぞれにできること、わかることなどを把握し、支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族、担当職員、それぞれの視点からニーズや課題を焦点化するよう努めている。	介護計画の作成のプロセスには本人も参加しており、本人や家族の意向・希望だけでなく日々の関わりの中から得られた情報も介護計画に反映させている。事業所独自様式の「24時間シート」には個別の支援内容と注意すべき点が記載されており、それに基づいて日々、細やかな実施記録を残している。その記録を基に毎月モニタリングを実施し、モニタリング内容は毎月家族へ送付して情報共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在は排便の有無についてのみ個別記録として、記入している。職員間の情報共有については、毎日の申し送りの時間に話し合い、実践して介護計画に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望等に対して都度、勤務を調整、変更して対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に音楽や将棋のボランティアの方に来ていただいている。また、隣接施設のイベントには積極的に参加し、交流の機会を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日中であれば、かかりつけ医に早めに診てもらおうようにしている。救急の場合は、カルテのある病院が個人別一覧になっているものを確認し、対応している。連絡・受入の流れがすぐ出来るようにしている。。	本人及び家族の希望に合わせて入居前からのかかりつけ医を継続しているが、近隣の協力医療機関とも連携を図っている。家族の受診支援を基本としているが、必要に応じて職員が対応することもある。医療機関と連携し情報共有を図るための市独自の手帳を活用して、家族が付き添う場合でも安心して受診できるように配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月1回、嘱託医の病院に全ご利用者をお連れし、受診している。また、同法人の隣接施設の看護師に毎週1回きてもらい、医療面の相談をしている。勤務外でも電話で相談し、必要であれば来てもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣医療機関の地域医療連絡相談室とは、入居相談等を含め日頃から連携している。入居者が入院した際にはMSWを通じて、医師・看護師・PT等からの情報を入手し、退院前にはムンテラにも同席させていただくなどスムーズな退院が出来るよう支援している。また、交代で面会に伺い、必要に応じて洗濯交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化・看取りに関する指針」の中で、ホームでの看取りは基本的には行わないことを謳っている。ご本人の状態に変化が見られた時は、その都度、ご家族や主治医と話し合いの場を設け、次のサービスにスムーズに繋がられるよう支援している。	できる限り本人や家族の望む生活ができるように、入居時及び重度化が予測される場合には早い時期に話し合いの機会を持つようになっている。住み替えが必要な場合は、隣接の特別養護老人ホームをはじめ地域の各施設等と連携を図って支援している。また、必要時には隣接施設の看護師の協力を得たり、協力医療機関の医師の往診を受けることができる体制も整っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医とは、24時間連絡が取れる体制になっている。全職員が、普通救命講習を受講済みである。	緊急時に備えた対応マニュアルの整備や、隣接施設の看護師による研修体制を整えている。新規採用の職員には看護師による対応の個別指導もあり、また、夜勤を行う職員は全員が消防署の救命救急法の講習を受講するなど、緊急時にスムーズに対応できる実践力の習得に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、隣接する特別養護老人ホームと連携して行っている。また、地域の総合防災訓練にも毎年参加している。今年度は隣接施設と合同で水害想定訓練を実施している。	毎年、計画的に年2回、消防署の立会いの下で、隣接する施設と地域住民の協力を得ながら、日中と夜間を想定した火災発生時の避難訓練を行っている。また、火災想定だけでなく、水害を想定した地域の避難訓練にも参加しており、あらゆる災害への対策を講じると共に、地域との協力関係の構築にも努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格、誇りを尊重した言葉かけ、対応を心掛けている。また、いかなる場合でも否定的対応にならないように配慮している。	法人の全体研修でプライバシーに関する研修を定期的に行っている。個人情報については、利用者の前で話したり、記録しないなど、職員間で注意合っている。また、洗濯物を干す際も下着は見えないように工夫して干したり、介助の場面でも希望に合わせて同性介助にするなどの配慮を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事前にアセスメントを重ねた上で、それぞれの状態に応じた個別の働きかけや言葉選びを行い、の自己選択できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などは、本人のペースに合わせた時間で行えるようにしている。職員が本人の自己決定の機会を奪うことがないように気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方に対しても、その日着る洋服などをご自分で選択していただくようにしている。それぞれの方の馴染みの理美容室の継続した利用を支援している(送迎や付添い)。外出を希望されない方には移動理美容を手配している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、買い物、調理作業や盛り付け、後片付け等、役割を持って職員と協力しながら作業している。また準備から食事に至るまでの流れの中で、食材や季節の会話等、食べる楽しみに繋がるような話題提供や言葉掛けを行っている。	配達業者が献立を作成しているが、献立は写真付きで利用者が内容についてイメージしやすいように工夫をしている。週に2回は利用者の意見を基に、庭の畑で採れたものなどを取り入れ職員が独自に献立を作成している。利用者個々の力や希望に合わせて食事の準備や片付け等の役割を担ってもらい、より食事が楽しめるように配慮をしている。誕生日や受診の際は、家族の協力を得て個別に外食も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子をみながら個々の健康診断データや体重の増減を参考に食事・水分量を調整している。個々のカロリー計算は行っていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者によって口腔ケアの声かけ・見守り・一部介助を行っている。定期的な歯科受診も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、個別に対応している。また、リハビリパンツ・尿取りパットを使用されている方に対しても、声がけや誘導等を行い、気持ちよい排泄にむけて支援している。	細やかな記録を行い、その記録を基に利用者個々の排泄パターンやリズムの把握に努め、排泄の自立を支援している。拒否があったり誘導が難しい方でも誘い方を工夫して気持ち良く排泄ができるように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方の排便間隔の把握・主治医に下剤の服用間隔の相談を行っている。入居者の希望にて乳酸菌飲料や牛乳を定期的に飲んでいただき便秘改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の健康状態・清潔保持に配慮した上で、希望に沿った入浴支援を行っている。また、入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等、季節感のある演出を心掛けている。	利用者一人ひとりの習慣や希望に合わせた入浴を心がけており、実際に1日置きや毎日入浴する方や、1回に1時間以上入浴をしている方もいる。お湯は一人ずつ入れ替えを行い、季節に合わせてゆず湯を行ったり、入浴剤を使うなど、入浴を楽しめるよう工夫をしている。拒否や誘導が難しい方でも時間帯や日を変えて声をかけ、気持ち良く入浴ができるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ睡眠薬を服用せず、自然に安眠が得られるよう支援している。生活習慣、睡眠パターンは概ね把握できており、不眠や浅眠傾向の方に応じて、日中の活動量を増やす、就寝前まで寄り添う、等の個別対応を行っている。また、夜間の睡眠状態や体調に応じて個々に休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬一覧表を作成し内服量・目的・副作用など把握している。状態にあわせてかかりつけ医に相談し用法・用量の調整をしていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や絵画・書道等、自発的に行える環境設定を行い、役割作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣に気軽に出かけられる場所が少ないため、ホーム外の環境に配慮し、散歩、ドライブ、買い物、理美容、喫茶店等への外出の機会を個別に設けている。	散歩や日用品の買い出しなどの日常的な外出だけでなく、花見やぶどう狩りなど季節に合わせた外出行事も行っている。墓参りや一時帰宅などの希望があれば、家族に協力を依頼して希望に沿うように支援している。また、昔馴染みの方の協力で、コンサートに出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでご家族からのお預り金を管理しているが、可能な方に関してはご家族了承の上、ある程度の現金を持っていただき、日常的な買い物の場面などにおいて支払いをしていただいている。職員側で見守りや支出の把握を行うなど、金銭トラブルの防止に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常に使用可能な状態である。入居者にもその旨お伝えし、架電の際は支援を行っている。また、子機を使用し居室でかけていただく等、プライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂では高齢者になじみやすい家具・物品等が使用されている。食器等も使い慣れた家庭的なものを使用していただいている。浴室、トイレ等も一般家庭に近い作りとなっているため、入居者の混乱もほとんど見られない。	廊下や階段の壁には利用者の書いた絵画の作品や行事等の写真とともに、利用者と一緒に作成した季節に合わせた飾りも飾っており、利用者が自分の居場所と思えるような共有空間となっている。湿度や温度もこまめにチェックして居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂のテーブル・ソファ等、入居者同士で自由に寛げる場を設けており、なじみの空間が作られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族で使用されていた家具や生活用品等を持ち込んでいただき、その方らしい居室となっている。安心して寛げる空間が作れている。	入居前に自宅の環境を確認し、今までの生活の継続を意識した居室作りに努めている。クローゼットの扉を外したり、手すりを設置するなど、本人の動線にもできる限りの配慮をしている。使い慣れた家具や仏壇などを利用者や家族の希望に合わせて持ち込んだり、思い思いの写真や作品を飾って、その人らしく過ごしやすい居室がつけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は入居者個々のホーム内における空間認知度やリスクを把握しており、混乱や失敗のないように事前に働きかけたり、対応することを心掛けている。できる限り、わかることやできることを生かし、自立した生活を支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				